



山住神社付近の土塀の道



実相院 (じっそういん)

岩倉門跡と呼ばれていた寺院で、正面の四脚門、玄関横の御車寄、中の客殿は、京都御所の承秋門院の旧殿を下賜されたものです。岩倉具視も一時期ここに在住しており、当時の密談の記録も残されています。新緑や紅葉の季節には美しく床に映るもみじが見事です。



山住神社 (やまずみじんじや)

桓武天皇が平安京を囲む東西南北の磐座 (いわくら) に魔界封じとして配した平安京四岩倉 (磐座) の一つ。巨大な自然石を神々の降臨の場とする古代信仰の貴重な遺跡です。現在は石座神社の御旅所となっています。



妙満寺 (みょうまんじ)

南北朝時代に創建された古寺で、1968年に寺町二条から現在の地に移されました。境内にそびえ立つ仏舎利塔越しに望む、雄大な比叡山の眺望が素晴らしい。「雪の庭」や、娘道成寺の物語で有名な「安珍清姫の鐘」があります。



史跡 栗栖野瓦窯跡 (しせきくりののがようあと)

飛鳥時代から平安時代に大規模な窯跡群があった幡枝一帯の中でも、平安時代の官営瓦窯として全国的に知られる窯跡です。ここで生産された瓦は、平安宮跡をはじめ、平安京跡や寺院跡から多数出土しており、平安時代の窯業を知る貴重な遺跡として国の史跡に指定されています。



深泥池貴船神社 (みどろがいけきふねじんじや)

雨水を司る龍神、「タカオカミノカミ」を祭神とし、主に農耕の守護神として信仰される神社。鞍馬山麓の貴船神社本宮への参詣が遠くて困難だったため、深泥池の農民によって分社として勧請されました。境内には京漬物として有名な「すき」発祥の地と伝わる秋葉神社があります。



深泥池地蔵 (みどろがいけしそ)

旧鞍馬街道沿いのこの地には、京の六地藏の一つ、御善薩池 (みどろいけ) 地蔵が祀られています。現在は鞍馬口の上善寺に移され、鞍馬口地蔵と名を改めています。

# 岩倉ルート

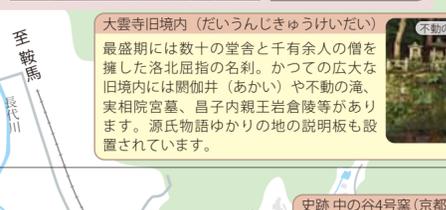
窯跡、群集墳墓、平安京の瓦工場群の遺跡等が多い「深泥池、岩倉」を歩く

深泥池は天然記念物生物群集と呼ばれる氷河期から残る美しい池です。その周辺には遺跡が点在し、古代の人々の生活の跡がうかがえます。岩倉幡枝には平安京の瓦工場があり、群集墳も数多くみられます。叡山電車岩倉駅の近辺は巨石祭祀の磐座を祀る祠や遺跡もあり、歴史の深さを感じさせる地域です。京都の岩倉らしい里山の道をたどり遺跡や寺社旧跡を歩くルートを紹介します。このルートは人々の信仰の歴史を感じさせる石仏も皆様を少々とお迎えするでしょう。



石座神社 (いわくらじんじや)

旧岩倉村の産土神 (うぶすながみ)。旧社地は現在の山住神社の地にあり、明治以前は大雲寺の鎮守社でした。毎年10月23日に山住神社を御旅所として神輿の渡御と五穀豊稔を祈る神事、岩倉火祭りがあります。



大雲寺旧境内 (だいうんじきゅうけいだい)

最盛期には数十の堂舎と千有余の僧を擁した洛北屈指の名刹。かつての広大な旧境内には關伽井 (あかい) や不動の滝、実相院宮墓、昌子内親王岩倉陵等があります。源氏物語ゆかりの地の説明板も設置されています。



十王堂橋上流の岩倉川と民家

# 八瀬 岩倉

# 八瀬ルート

平安京の瓦造りを担った小野瓦窯跡、上高野の歴史を秘める社寺を歩く

上高野、三宅八幡、岩倉、八瀬の地域は比叡山のふもとで、古くは小野妹子で知られる小野氏の活躍拠点です。埋蔵文化財の発掘で確かめられた遺跡や、訪れる人も少ない山裾にひっそりと佇む社寺をめぐります。悠久の時間が流れる京都の洛北の地を、土の中の遺跡に歴史を感じながら美しい景色を楽しむルートをご案内します。



西塔橋下流の木橋



三宅八幡神社 (みやけはちまんじんじや)

小野妹子が宇佐八幡宮を勧請したことが起源。「虫八幡」とも呼ばれ、子どもの疳の虫除けの神として江戸末期頃から崇敬を集めています。その様子は絵馬として奉納されており、境内の絵馬堂で見ることができます。(国指定無形民俗文化財)



三明院 (さんみょういん)

真言宗醍醐派の寺院。高台に位置し、遠くからでも見ることが出来る多宝塔はこの地域のシンボルの存在です。その塔からは上高野の地が一望できます。



水が豊かな上高野に昔数多くあった水車小屋が池畔に再現され、憩いの場所となっています。



崇道神社 (すどうじんじや)

桓武天皇の弟「早良 (さわら) 親王」を祀る神社。藤原種継暗殺事件の首謀者とされた事件に抗議して憤死した早良親王の祟りを鎮めるため、崇道天皇と追号を贈りこの地に祀ったことに由来します。



小野毛人墓 (おののえみしか)

小野妹子の子で、白鳳時代に天武天皇に仕えた小野毛人の墓。崇道神社境内背後の山腹にあり墓からは鍔銅製の墓誌 (国宝) が発見されました。(市指定史跡)

約15分



瑠璃光院 (るりこういん)

八瀬の溪谷にある三条実美 (さんじょうざねとみ) ゆかりの寺院。新緑と紅葉の時期だけ一般に公開されています。



御蔭神社 (みかげじんじや)

賀茂御祖 (下鴨) 神社の境外摂社。葵祭に先立ち、5月12日に行われる御蔭祭は、下鴨神社の神官が御蔭山より神霊を下鴨神社まで迎える厳粛な神事で、古代からこの地は山背 (やましろ) 北部豪族の祭祀の中心地となっていました。



蓮華寺 (れんげじ)

応仁の乱による焼失後1662年に加賀前田藩の家田今枝近義がこの地に再建した寺院。六角形の笠を持つ蓮華寺型燈籠や池泉築山式庭園があり、紅葉の名所でもあります。



小野瓦窯跡 (おのがようあと)

平安時代、宮殿や寺院の屋根に葺いた瓦を生産していた官営の窯跡。現在「おかいらの森」と呼ばれる小丘に存在し、崇道神社の御旅所ともなっています。(市指定史跡)

● 少々で巡り合える石仏たち (岩倉ルートのみ) ●

岩倉周辺には、昔から庶民信仰の対象とされてきたお地藏さんや道祖神が随所に残されています。野辺や路傍でふと出会う石仏たち。ひとときのなごみとともに、昔の人々の生活や思いにふれてみてはいかがでしょうか。

1. 目なし地藏
2. 三面石仏
3. 三尊石仏
4. 三尊石仏
5. 三尊石仏
6. 三尊石仏
7. 三尊石仏
8. 三尊石仏
9. 三尊石仏
10. 三尊石仏
11. 三尊石仏
12. 三尊石仏

# 八瀬 岩倉



## ～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・財団法人京都市埋蔵文化財研究所

### 1 八瀬 岩倉周辺の発掘調査

岩倉の地は北山や比叡山、松ヶ崎丘陵等に囲まれた小盆地です。この地域では、古墳時代の末期には須恵器の生産が開始され、以降、平安時代に至るまで須恵器と瓦の生産地として知られています。平安時代の官窯として著名な栗栖野瓦窯や小野瓦窯もこの地にあり、瓦の生産は平安時代末期まで続けられます。また、平安時代には緑釉陶器や土師器の生産も行われ、中世以降も幡枝や木野では、土師器の生産が、木野においては近年まで、かわらけの生産が続けられていました。このように岩倉の地は窯業生産の歴史と伝統を持つ土地柄です。さらに、製鉄に利用される白炭を作っていた炭窯も存在し、製鉄が行われていたと考えられます。加えて、盆地西・南側丘陵部には、六つの古墳群が確認されています。しかし、盆地内の集落についてはあまりわかっていないのが現状です。



### 2 栗栖野瓦窯

栗栖野瓦窯跡は昭和5年に木村捷三郎氏により発見されました。氏は、この窯跡が平安時代の法典の一つである『延喜式』に記載されている「栗栖野瓦屋」であり、木工寮に属する官営の瓦生産工房と位置づけました。これが契機となり昭和9年に丘陵の一部が国の史跡に指定されました。その後、何度かの発掘調査が行われ、確認した窯は24基になります。当初は平安時代の瓦窯であるとされていましたが、発掘調査によって、瓦の他に須恵器や緑釉・二彩陶器等も焼かれていたことや飛鳥時代まで時代が遡ることも判明してきました。



### 3 小野瓦窯

『延喜式』のもう一つの瓦屋である小野瓦屋は岩倉盆地の東部、上高野小野町にある崇道神社の御旅所である「おかいらの森」と称される丘周辺と推定されています。平成16年2月、おかいらの森で初めての発掘調査が実施され、丘南側で半地下式の平窯を1基発見しました。出土した瓦から、この窯は11世紀前半に生産し始め、中頃には操業を停止していたようです。出土したのと同じ型で作られた瓦は藤原頼通の邸宅、高陽院跡からも出土しています。また、おかいらの森を形成する土には大量の瓦片や焼土、炭などが含まれていたことから、この丘は当時の産業廃棄物処理場であり、それで丘が形成されたといえます。その量からして、周辺には多くの窯跡があると考えられます。



### 4 松ヶ崎廃寺

松ヶ崎廃寺は平安時代中期に源保光によって建立された松ヶ崎寺と考えられ、後に歎喜寺と名を改めて延暦寺の末寺となりましたが、鎌倉時代に日蓮宗に改宗し妙泉寺と名を改めています。天文5(1536)年の天文法華の乱で焼亡しますが、天正3(1575)年に再建されました。昭和9年、寺域の一部が松ヶ崎小学校となり、寺は大正7年に近くの本涌寺と合併し、現在の涌泉寺となりました。松ヶ崎小学校内で何度かの発掘調査が行われ、妙泉寺に関連する石垣がみつかっています。また、その下で平安時代後期の礎石建物とその南東に広がる景石・洲浜・遣水を伴う池跡をみつめています。建物から背後に比叡山を望む池のある庭園は、素晴らしい光景だったと思われまます。また、妙泉寺の石垣の一部は校庭に移築し保存されています。



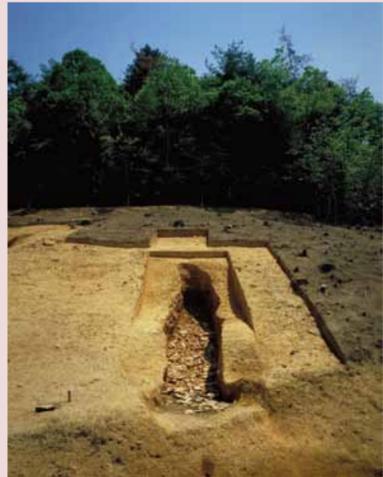
### 5 植物園北遺跡

京都盆地の北部、賀茂川東岸の扇状地に広がる、弥生時代終末から古墳時代初期の京都市内でも最大の集落跡です。昭和54～56年に実施した、公共下水道敷設工事に伴う立会調査で発見されました。その後、発掘調査が進み、遺跡は東へと広がることがわかりました。また、縄文時代晩期の竊棺墓のほか奈良時代の竪穴住居や掘立柱建物、平安時代から室町時代の建物・井戸・溝等もみつかっています。



### 6 中の谷窯跡

精華大学から北にかけての中の谷に点在する窯跡です。精華大学キャンパス内の発掘調査において、奈良時代の須恵器窯2基、平安時代の灰釉陶器窯1基を発見しました。灰釉陶器窯は畿内では初めての発見で貴重なものであり、京都市の史跡に登録保存されています。



### 7 南ノ庄田瓦窯

岩倉自動車学校の東端から西側に3基の平窯が確認されましたが、うち2基は完全に破壊されていました。残された1基について発掘調査を行い、分焰床式平窯と判明しました。また、出土した遺物から、平安時代末期～鎌倉時代初期に操業していた瓦窯と判明しました。



### 8 幡枝古墳群

岩倉自動車学校の南から南東部に広がる古墳群で20基以上の古墳で構成されます。立地からみると、2基が平地に、その他は丘陵上にあります。自動車教習所内にあったとされる1号墳と発掘調査が実施された2号墳が平地のもので、1号墳からは銅鏡や剣、管玉が発見されており、5世紀前半のものと思われる、2号墳は2基の木棺を直葬した主体部があり、東側の棺から鉄剣・鉄刀・金具が、西側の棺からは鉄剣・鉄刀が出土しています。また、両棺上には、東側から須恵器、西側から鉄器の破片が集中して出土しており、埋葬後に須恵器や鉄器を粉砕するような祭祀が行われた可能性を伺うことができます。他の古墳は6世紀の終わり頃から7世紀の初め頃に造られたものと考えられます。

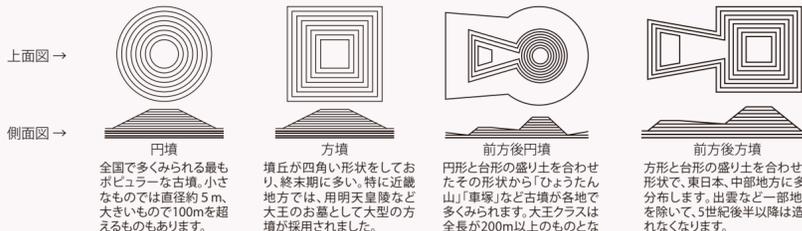


### 9 洛北八瀬 岩倉周辺の発掘調査地点



### 古墳の種類

古墳には様々な形状が存在しますが、ここでは一般的によく知られている形状をご紹介します。



### 京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435  
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1  
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307  
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/

入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)  
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)

JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分  
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ

